

「シュリハンドク ～おそうじ～」

アメリカでは多くの小学校で、子どもたちはお掃除をしません。
(理由は大きく二つ。一つ目はうちの子を掃除人にさせるつもりはないと
言う保護者の反対。もう一つは掃除をする人たちから、私たちの仕事を
奪うのかと抗議が出る。)

うらやましいですか？校長先生は全くうらやましいとは思いません。
日本では全ての学校で、子どもたちがお掃除をやります。
校長先生は素晴らしいことだと思っています。



その理由として、一つのお話をします。

むかしむかし、2500年ほど前のお話です。インドという国に「シュリハンドク」という名前のお坊さんがいました。このお坊さんは、朝聞いたことでも夜になるともう忘れてしまいます。自分の名前も覚えられなくて、背中に自分の名前を書いてもらい、人から名前を聞かれると背中を見せて教えています。シュリハンドクはそういう自分が情けなくなって、ある時、お師匠様の所へ行って「私は、もうお坊さんをやめたいです。」と相談しました。するとお師匠様は「何も心配することはいりません。」と言って、彼に1本のほうきを渡し、「これできれいにしましょう。」とおっしゃいました。

シュリハンドクは、それから何年も、掃除をし続けました。ある日、いつものように庭掃除をしていると、お師匠様が来て、「ずいぶんきれいになりましたね。だけど1ヶ所だけ汚い所がありますね。」と声をかけてきたのです。そこで、シュリハンドクは不思議に思い「お師匠様、どこが汚いのでしょうか？」と尋ねましたが、教えてくれませんでした。「はて、どこなんだろう？」と思いながら、それからもずっと「もっときれいにしよう。」と言いながら掃除を続けたのです。

ある時、子どもたちが遊んでいて、シュリハンドクがせっかくきれいに掃除をした所を汚してしまいました。シュリハンドクは思わずほうきを振り上げ怒鳴りました。「こら！どうして汚すんだ。」

その瞬間、彼は本当に汚れている所に気がつきました。それは、自分の心だったのです。

その時、お師匠様がシュリハンドクの後ろに立っていて「これで全部きれいになりましたね。」とおっしゃってくれたのです。掃除することは「掃除がイヤ」だとか、「さぼりたい、もっと楽をしたい」とか、「人のことを悪く言ったり、威張りたい」などという心の中の汚れをきれいにすることだということに気がついたのです。

お師匠様の教えがわかったシュリハンドクは、ますます掃除に精を出し、人々から尊敬される立派なお坊さんになったのです。

今日は、お掃除にちなんだお坊さんのお話をしました。お掃除を一生懸命に行うことは、もちろんその場所をきれいにすることなんですが、実は「自分の心もきれいにする」ということだったんですね。



そういう、「心をきれいにする」ということが、実は将来、皆さんが大きくなる時にどうしても大事になってくることなんです。ですから、日本の学校では、子どもたちが一生懸命お掃除をするということ、校長先生は素晴らしいことだと思うのです。

今週、大掃除があります。「学校をきれいにする」と同時に「自分の心をきれいにして」今年を締めくくってほしいと思います。